

施策7 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

文化財の調査収集を行い、その保存と活用を図るとともに、歴史や文化の薫り高い文化環境づくりを推進します。

詳細施策7-1 文化財保護マスタープランの策定・推進

～文化財の保存と活用にかかる指針の策定と推進～

●現在の状況は

市内には、数多くの文化財が残されていますが、これまではその保存に力が注がれてきました。今後は、大切に保存されてきた文化財をいかに有効的・効果的に活用することができるかが課題であり、保存と活用に関する長期的な指針を定め、計画的に推進していくことが求められています。

●これからの取り組みは

1 文化財保護マスタープランの策定・推進

市内に存するあらゆる文化財について総合的かつ悉皆的な調査や洗い出しを行い、その活用法や整備のあり方、施設などの設置等について総合的・体系的な方向性を示すため、文化財保護マスタープランを策定し、推進していきます。

詳細施策7-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり

～地元に残された遺跡等を活かした歴史学習～

●現在の状況は

先人たちが現代まで伝えてくれた文化遺産を保存し、後世に引き継ぐことはとても大切なことです。そこで、身近に残された文化遺産を活用して、楽しみながら歴史学習のできる環境づくりが求められています。

●これからの取り組みは

1 市内に残されてきた史跡の整備・活用

市内には、東日本でも有数の遺跡、古墳が残され、これらは国等の史跡に指定されているものもあります。

そこで、国指定史跡保渡田古墳群*、箕輪城跡*、日高遺跡*、北谷遺跡*、市指定史跡山名古墳群*を史跡公園として整備することにより、歴史学習・生涯学習の場を提供します。

2 先人たちが使った建造物の活用

市内には上豊岡の茶屋本陣*、下田邸*、新町行在所*等の大名や武士、皇族などが使用したとされる建物が残っています。

そこで、これらの文化財を一般に公開するとともに、史跡めぐり等のルートに組み込むことによって、往時がしのばれるような環境づくりを推進します。



歩く史跡めぐりの様子1



歩く史跡めぐりの様子2

詳細施策7-3 市民への文化財情報の提供 ～インターネット環境の充実～

●現在の状況は

高速通信網が急速に普及したことにより、インターネット等を利用して、いつでも、どこでも、誰にでも文化財に関する情報が簡単に入手できるような、体制の構築が求められています。

●これからの取り組みは

1 迅速かつわかりやすい情報の提供

ゆとりある社会、心豊かな社会を目指す中であって、市内に存する文化財の名称、時代、所在地や埋蔵文化財の調査状況、出土品や博物館等の活動について、迅速かつわかりやすい情報を提供します。

2 埋蔵文化財包蔵地域の分布調査の実施

埋蔵文化財を確認するのに必要な情報を得るため、これまで未調査であった地域の埋蔵文化財包蔵地域分布調査を行います。

3 埋蔵文化財の情報提供体制の充実

土木工事等を行う際には、当該地が埋蔵文化財の包蔵地であるかどうかの確認を必要とします。埋蔵文化財の確認のために必要な情報について、いつでも、どこからでも提供できる体制の充実を図ります。

4 生涯学習関連施設・機関等とのネットワークづくりの推進

博物館相互の連携はもとより、他の生涯学習関連施設や機関等との連携・協力を図るとともに、情報を活用する市民とのネットワークづくりを推進します。

詳細施策7-4 文化財に親しむための環境づくり
～文化財の学習機会の提供～

●現在の状況は

生涯学習へのニーズが多様化する中、文化財に対する市民の関心がますます高まりつつあります。市民の文化財に対する学習意欲に応えるため、より多くの学習機会を提供するとともに、その環境づくりが求められています。

●これからの取り組みは

1 文化財にかかる多様な学習支援

市内の文化財を知ることにより文化財に対する理解を深め、郷土に親しむ心を育むという観点から、出前講座等にはより多くのメニューを取り入れ、市民のニーズに即した文化財にかかる学習支援を行います。

2 生きた教材としての利用の促進

生きた教材である文化財や出土遺物をシティギャラリー、博物館、資料館等で公開展示するとともに、学校や公民館での積極的活用を通して、地域の歴史や文化を学ぶ機会を増やします。

3 発掘調査等を体験する機会の提供

埋蔵文化財に興味がある市民を対象に、発掘調査や土器の復元等の体験をする機会を提供します。

4 指定文化財の啓発活動の促進

市町村合併により市内に存する史跡・重要文化財等は300件を超えました。これらの文化財についてわかりやすく紹介する冊子を作成し、身近なものとしての文化財のあり方、大切さを理解してもらえるよう働きかけを行います。



詳細施策7-5

歴史的建造物の保存へ向けた環境整備

～ふるさと高崎を象徴する風景の保全～

●現在の状況は

近年の都市化や再開発により、古き良き時代を偲ぶことができる風景が年々姿を消しつつあります。こうした風景を演出する古い建物や景観は当時の人々の生活ぶりを知る上で貴重な資料となっています。そこで、これらの建物のうち歴史的に価値があるものは保存し、21世紀に残していくことが求められます。

●これからの取り組みは

1 歴史的建造物の保存

市内には、江戸時代あるいは明治時代に建てられた建造物がまだ数多く残されています。これらの中から貴重な建造物は、市民の理解と協力を得ながら、指定文化財や登録文化財として保存し、後世に伝えていきます。

2 昔の風景や景観の保全

市内各地域には、かつての繁栄をしのぶ古い町並みが残されています。このような歴史的な潤いを残した景観を大切に保全するとともに、関係部局と協力しながら、景観を生かしたまちづくりについて提言します。

詳細施策7-6

地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり

～文化財愛護精神の高揚～

●現在の状況は

文化財は将来の市民文化の向上発展の基礎であるという認識のもとに、地域住民が文化財に愛着心を持ち、地域の文化財は自分たちの手で保護していこうという心を育むことが求められています。

●これからの取り組みは

1 参加型・体験型の文化財関連行事の開催

史跡めぐりや発掘体験、作文コンクール等市民が自ら参加、体験できる文化財関連行事を開催します。

2 文化財を保護し、伝えるための組織の充実

地域の文化財は地域の手で保護するとともに、次の世代に引き継いで行こうという機運を盛り上げ、その機運が文化財保護のための具体的な活動に結びつくよう、ボランティアグループの育成、組織づくりの支援を行います。

詳細施策7-7 民俗資料の収集と展示

～現代生活の原点をたどる～

●現在の状況は

急激な社会生活や生産様式の変化により、人々の気づかぬままに民俗文化財が消滅あるいは変質しつつあります。昔の人の生活文化を知り、市民生活の推移を理解するため、歴史民俗資料の収集と展示が求められています。

●これからの取り組みは

1 歴史民俗資料の収集と展示

失われていく生活用具や生産に関する道具（農具・養蚕機織具等）を、市民の協力を得て収集・保存していきます。また、収集した資料を整理し、昔の生活を再現しながら、親しみの持てるわかりやすい展示と体験学習を行います。

2 展示情報の発信

郷土の歴史を取り上げ、主に近世以降を中心に企画展等を行い、広報誌や新聞、ラジオのほか、インターネットを活用し、歴史民俗に関する情報を発信します。

詳細施策7-8 市民の積極的参加を促す資料館活動

～歴史民俗の学習と伝えたい伝統・技術～

●現在の状況は

人々の生活様式が変化するにつれて、趣味や価値観も多様化しており、歴史や風俗習慣への関心が高まりつつあります。そこで、地域の風土の中で、祖先から伝承されてきた伝統技術等を将来へ伝えていくことが求められています。

●これからの取り組みは

1 体験学習を通じた伝統的機織り技術の伝承

代々受け継がれてきた上州の伝統的な機織りの風景は、いまではほとんど見られませんが、資料館が収集した古い機織り道具を活用して、伝承技術の保護・育成に努め、小学生等の体験学習を通して技術を伝えていきます。

2 伝統行事や技術等の保存・伝承

企画展、講演会等を通して、高崎市域に伝えられている伝統行事や技術、年中行事等の伝承を図るとともに、その歴史や背景について展示等により、わかりやすく伝えていきます。

詳細施策7-9

市民に開かれた資料館の運営

～市民とともに知の楽しみを分かち合う運営～

●現在の状況は

国指定史跡の古墳等を常時公開し、古墳から発見された国指定重要文化財を常設展示しています。また、市内遺跡の遺物を旧石器時代から通史展示し、市民の考古学習の場を提供しています。

これからは、地域に根ざした開かれた学習支援機関として、市民の意思が反映された運営が求められています。

●これからの取り組みは

1 「市民とともに作る資料館」

市民の視点、意見を重視した資料館運営を目指すため、市民の企画による、参加型の企画展を開催するなど、資料館運営に直接参加する機会を設けます。

2 「まちに生きる資料館」

常に人々が集い、人々に親しまれる場としての資料館、文化的な「まちのオアシス」「まちの広場」と位置づけ、地域とともに発展する資料館を目指します。

詳細施策7-10

市民の学習活動の支援

～学習支援機関としての役割～

●現在の状況は

企画展の開催と小・中学校の児童・生徒の歴史学習としての受入れを通して、市民の学習活動を支援しています。

最近では、市民の考古学習への高まりの中で、市民が生涯にわたって学習することができる社会の実現に向けて、博物館が必要な役割を果たしていくことが求められています。

●これからの取り組みは

1 生涯学習社会の実現に貢献する活動の推進

資料の収集や調査研究等の活動を一層充実させるとともに、多様化・高度化する学習者の知的欲求に応えるべく、自主的な研究グループやボランティア活動を通して、学習者とのコミュニケーションを活性化していきます。

2 市民の学習活動の高まりに応えた企画展の実施

多様で、かつ高度な市民の学習欲求に応えるために、企画展を春と秋の年2回実施いたします。

3 体験学習の場の提供

児童・生徒がこれからの社会の中で、生涯にわたって、心豊かに、主体的、創造的に生きていくことができる資質や能力を身に付けられるよう、文化財を見たり、触れたりすることのできる体験学習の場を設けます。